

「地域元気プログラム」

テキスト編



1

子育て新事情

～前はこうだったけど…～

見守り世代が、子育ての方法について話し合い、子育て世代への関わりについて考える。
また、以前と今の子育て事情を比べ、変わったこと、変わらないことがあることに気付くとともに、ワークをとおして、見守り世代が子育て世代にどのように関わっていけばよいかについて学び合う。

目安時間	60分	手法	ディスカッション
準備するもの	ワークシートと資料（人数分）、筆記用具		
想定する学習機会	男女共同参画講座、高齢者学級 等		

見守り世代

ワーク1 以前と今の子育て方法について、意見を出し合う（20分）

自分が知っている「以前から変わった『今』の子育て方法」をワークシートに書き出して、グループで意見を出し合う。※ここでの「子育て」対象は就学前の幼児として考える。

声かけ例1

- ・以前（皆さんが子育てしていた頃）と今とで、変わったことを具体的に出してください。
- ・自分の経験だけでなく、見たり聞いたりしたことでも構いません。
- ・できるだけたくさん記入してください。

声かけ例2

- ・順番に自分の意見を発表してください。
- ・人の意見に付け加えてもいいですよ。
- ・いろいろなことが変わっているようですね。

ワーク2 資料から、子育て世代への関わり方を考える（30分）

- ① 資料を読んで感想を出し合う。その上で、見守り世代が子育て世代にどのように関わればよいか話し合う。

声かけ例

- ・ワーク1も含め、以前と今とで「子育て方法」が変わってきていますが、どう思いましたか。
- ・見守り世代は、子育て世代にどのように関わったり接したりしていけばよいと思いますか。

引き出したい意見

- ・以前はよいと聞いたこと、正しいと思っていたことが、違っていたなんて思わなかった。
- ・以前の子育て方法を押しつけるだけではいけないと思う。
- ・自分たちも子育ての新しい知識を学んだり、取り入れたりしていくことは必要だと思う。

- ② 子育てにおいて、以前も今も変わらないことは何か意見を出し合う。また、時代は変わっても、子どもに対する親の愛情が不変であることを確かめる。

声かけ例

- ・以前と今とで子育て方法が変わったものはありますが、変わらないのはどんなことでしょうか。

引き出したい意見

- ・子どもへの愛情
- ・元気に育ててほしいと思う心
- ・子どもを心配する気持ち

まとめ・ふりかえり（10分）

今後、自分は子育て世代にどのように関わっていきたいか考える。

- ☑以前と今とでは、子育て方法が変化していることが分かったか。
- ☑見守り世代が子育て世代にどのように関わればよいか分かったか。

ワークシート「子育て新事情～前はこうだったけど…～」

ワーク1 自分が知っている「『以前』と変わった『今』の子育て方法」を下に書き出して、グループで意見を出し合しましょう。

(例) お風呂上がりのあせも防止にベビーパウダーを使う → ベビーオイル、ローションを使う

(例) おじいさんやおばあさんと一緒に寝る → ベビーベッドに寝る

ワーク2 資料を読んで、グループで話し合しましょう。

①感想を出し合い、子育て中の親への関わり方を考えましょう。

資料を読んで、どう思いましたか。

自分たちは、子育て中の親にどのように関わっていくとよいと思いますか。

②以前も今も変わらないのは？

まとめ・ふりかえり

今後、自分は子育て中の親にどのように関わっていきたいと思いますか。

【資料】

1 知っておこう 「イマドキ」子育ての常識

医学の進歩や研究の進展の結果、「子育ての常識」が変わってきています。そのため、特に、子育てをする親や保護者、周りの大人は、自分の親や先輩など経験者の知識を大切にしつつ、新しい子育てについて学ぶ必要があります。

今の「子育ての常識」には、どのようなものがあるのでしょうか。

赤ちゃんの食べ物の常識 「ハチミツは食べさせてはいけない」



- ・1歳未満の赤ちゃんがハチミツを食べることによって乳児ボツリヌス症（食中毒）にかかることがある。
- ・ボツリヌス菌は熱に強いため、通常の加熱や調理では死なない。1歳未満の赤ちゃんにハチミツやハチミツ入りの飲料・お菓子などの食品は与えない。（井戸水からの感染例もある。）

赤ちゃんを寝かせるときの常識 「うつぶせで寝かせてはいけない」



- ・1歳になるまでは、寝かせる時はあおむけに寝かせる。
- ・SIDS（乳幼児突然死症候群）は、うつぶせに寝かせたときの方がSIDSの発生率が高いということがわかっている。
- ・医学上の理由でうつぶせ寝を勧められている場合以外は、赤ちゃんの顔が見えるあおむけに寝かせる。
- ・あおむけ寝は、睡眠中の窒息事故を防ぐ上でも有効である。

赤ちゃんや妊婦への配慮の常識 「たばこの受動喫煙を防止する」



- ・たばこはSIDS発生の大きな危険因子である。
- ・妊娠中の喫煙はおなかの赤ちゃんの体重が増えにくくなり、呼吸中枢にも明らかによくない影響を及ぼす。
- ・妊婦自身の喫煙はもちろんのこと、妊婦や赤ちゃんのそばでの喫煙はやめる。

【資料】

2 比べてみよう 子育ての「以前の常識」と「今の常識」

時代によって、良いとされる子育て方法は変化します。また、家庭によって方法が違うこともあります。今、主流となっている子育て方法について知っておきましょう。

次の5つの例は、今の子育てでは「常識」となっているものですが、どれも以前は逆の対応が良い、問題ないとされていたものです。「以前の常識」と比べると大きく変わった「今の常識」ですが、その根底にあるものは、変わらないのかもしれませんが。

- ①赤ちゃんが泣いたらすぐに抱っこする。抱き癖は心配ない。
- ②離乳食をはじめる前に、果汁やスープなどで、母乳やミルクの栄養を補う必要はない。(以前の粉ミルクにはビタミン類が足りなかった)
- ③大人の持つ虫歯菌をうつさないよう、赤ちゃんの歯が生える前でも、大人が使った箸やスプーンで赤ちゃんに食べ物を食べさせない。赤ちゃん専用の食器を使う。
- ④母乳だけで育てている場合は、風呂上がりなどに白湯^{さゆ}を飲ませなくてよい。
- ⑤月齢を目安に母乳を断つ(やめる)のではなく、赤ちゃんの成長に合わせて自然に「卒乳」するのを待つ。

今、良いと言われている「子育ての常識」も、今後変わる可能性はあります。子どもの命や健康に関わる子育て方法の変化であれば、たとえ子育てが終わった大人でも学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

大人は健康や命に関わる最新の「子育ての常識」をしっかりと押さえ、「べき論」で考えないようにして、ストレスが少ない子育てを心がけるようにしたいものです。

参考：厚生労働省「ハチミツを与えるのは1才を過ぎてから。」<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000161461.html>

「乳幼児突然死症候群(SIDS)について」<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/sids.htm>

栃木県「とちぎの子育て情報サイト笑顔いっぱい(あかちゃんすくすくQ&A)」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/kodomo/kosodatesien/boshihoken/qanda.html>

2

え？それってあなたの仕事？

家族の形が様々に変化していることに伴い、各家庭における子育ての事情、役割分担などが変化している現状について、見守り世代が話し合いをとおして確認し合う。また、社会全体で子育て家庭を支えていくための課題について考える。

目安時間	80分	手法	ディスカッション
準備するもの	ワークシート、筆記用具、資料		
想定する学習機会	高齢者学級、家庭教育講座 等		

見守り世代

ワーク1 以前の子育てについて振り返る。(15分)

以前の子育てについて、主に誰の仕事だったのかをワークシートに記入し、グループで感想を話し合う。

声かけ例

ご自身の経験でなくても、一般的に役割を担っていたと考えられる人に○をつけてください。

ワーク2 今の子育て世代の子育てについて考え、以前との違いを話し合う。(25分)

今の子育て世代の子育てについて、主に誰の仕事かを考え、ワークシートに記入し、ワーク1との違いについて感想を話し合う。

ワーク3 資料を見て、家族の形の変化や今の子育て事情について考える。(20分)

資料を見て、家族の形が変化していること、夫の育児参加が増えていること、地域とのつながりが少なくなっていること等を知る。

声かけ例

- ・家族の形や子育てについて、どんな変化がみられますか。
- ・家族の形の変化では、共働き世帯が約30年間で倍増している一方、専業主婦世帯は減少しています。
- ・子育てに関しては、夫の関わりが増えていますが、地域とのかかわりは薄くなってきています。

ワーク4 現状から、子育て世代を支えるために必要なことを考える。(10分)

家族の形や子育て事情の変化の現状から、地域で子育て世代を支えていくためには、どんなことが必要か、ワークシートに記入し、グループで話し合う。

引き出したい意見

- ・今は、いろいろな家族の形があるので、それぞれに合わせた支援が必要である。
- ・地域とのつながりが薄いので、地域がもっと子育て家庭に関わることができるとよい。

まとめ・ふりかえり (10分)

今回の学習をとおしてわかったことをワークシートに記入する。

- 時代とともに家族の形が変化していることがわかったか。
- 家族の形の変化により、子育てに関わる役割分担が様々であることに気付いたか。

ワークシート「え？それってあなたの仕事？」

ワーク1 以前の子育てについて、振り返りましょう。

(1) 主に誰の仕事だったか、当てはまるところに○をつけましょう。

※複数回答可

項目	分担			項目	分担		
	母親	父親	その他 (祖父母等)		母親	父親	その他 (祖父母等)
遊び相手をする				食事をさせる			
風呂に入れる				保育園などの送迎			
寝かしつける				学校行事への参加			
おむつを替える				地域行事への参加			

(2) 地域の相談相手について、当てはまるものを○で囲みましょう。

地域での子育ての相談役	たくさんいた	いた	あまりいなかった	いなかった
-------------	--------	----	----------	-------

ワーク2 今の子育てについて、考えましょう。

(1) 主に誰の仕事だと思うか、当てはまるところに○をつけましょう。

※複数回答可

項目	分担			項目	分担		
	母親	父親	その他 (祖父母等)		母親	父親	その他 (祖父母等)
遊び相手をする				食事をさせる			
風呂に入れる				保育園などの送迎			
寝かしつける				学校行事への参加			
おむつを替える				地域行事への参加			

(2) 地域の相談相手について、当てはまるものを○で囲みましょう。

地域での子育ての相談役	たくさんいる	いる	あまりいない	いない
-------------	--------	----	--------	-----

☆ ワーク1の表と比べて、感想を話し合しましょう。

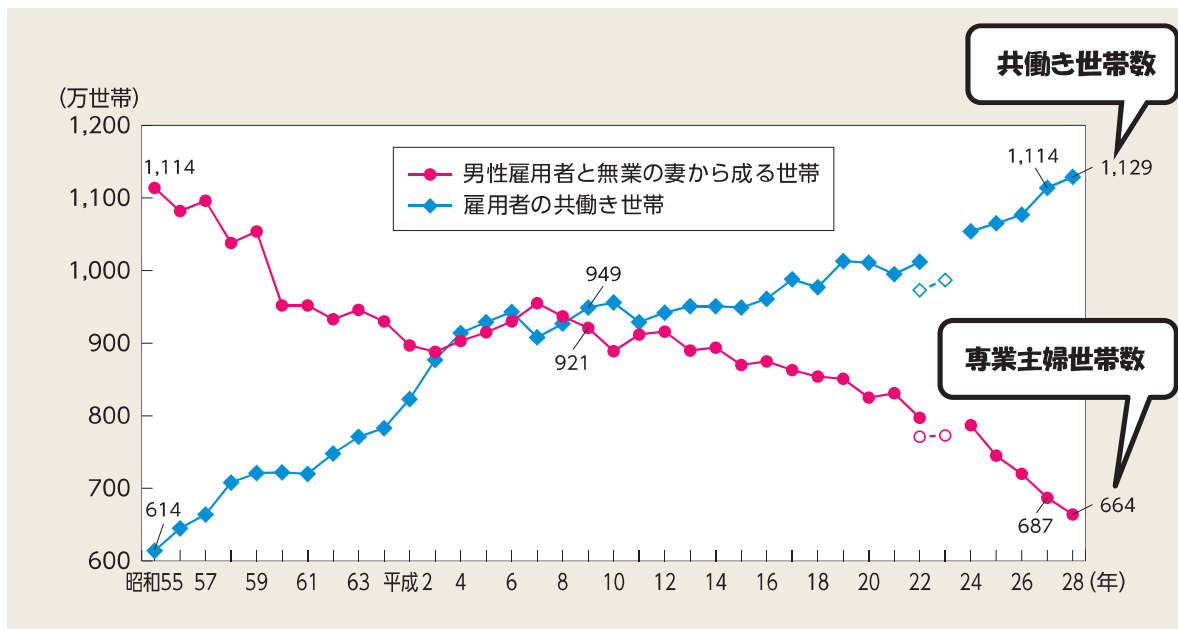
ワーク3 資料を見て、家族の形や子育て事情の変化について考えましょう。

ワーク4 地域で子育て世代を支えていくためには、どんなことが必要だと思いますか。

まとめ・ふりかえり 今の子育て世代の現状について、どんなことがわかりましたか。

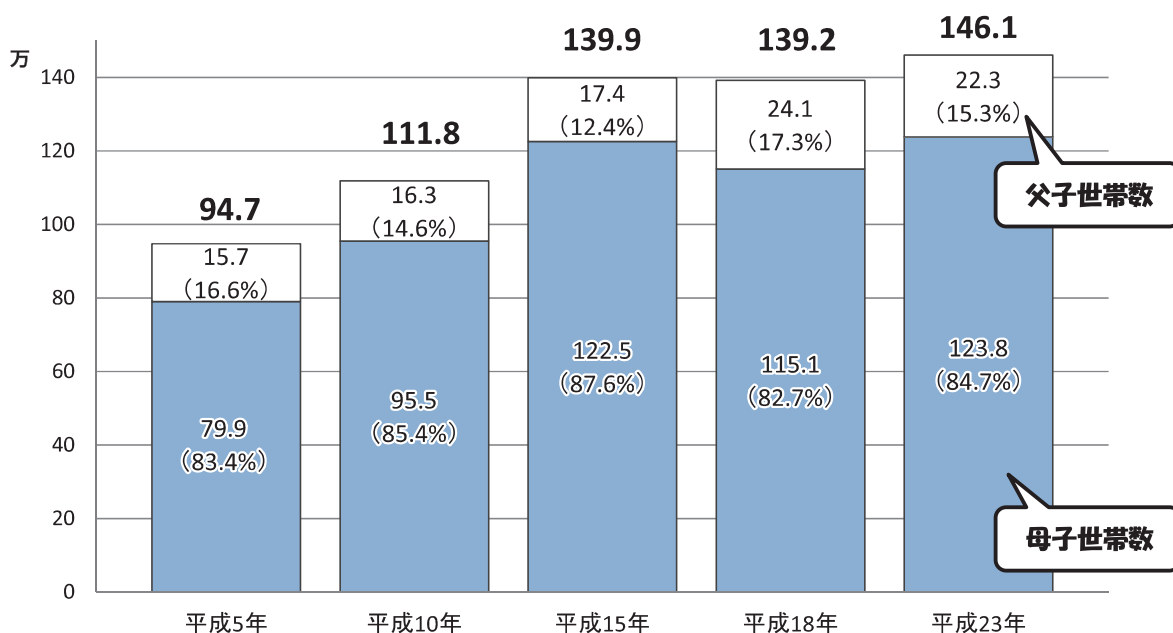
【資料】

図1 共働き世帯数と専業主婦世帯数の推移



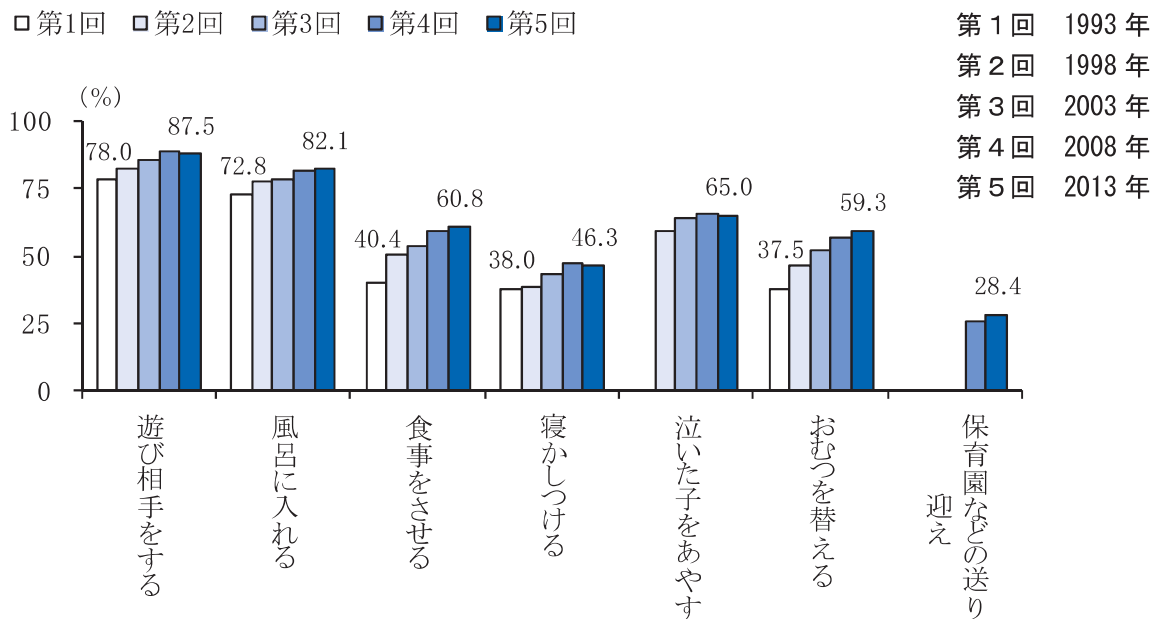
内閣府「平成29年版 男女共同参画白書」

図2 母子世帯・父子世帯の数 (推計値)



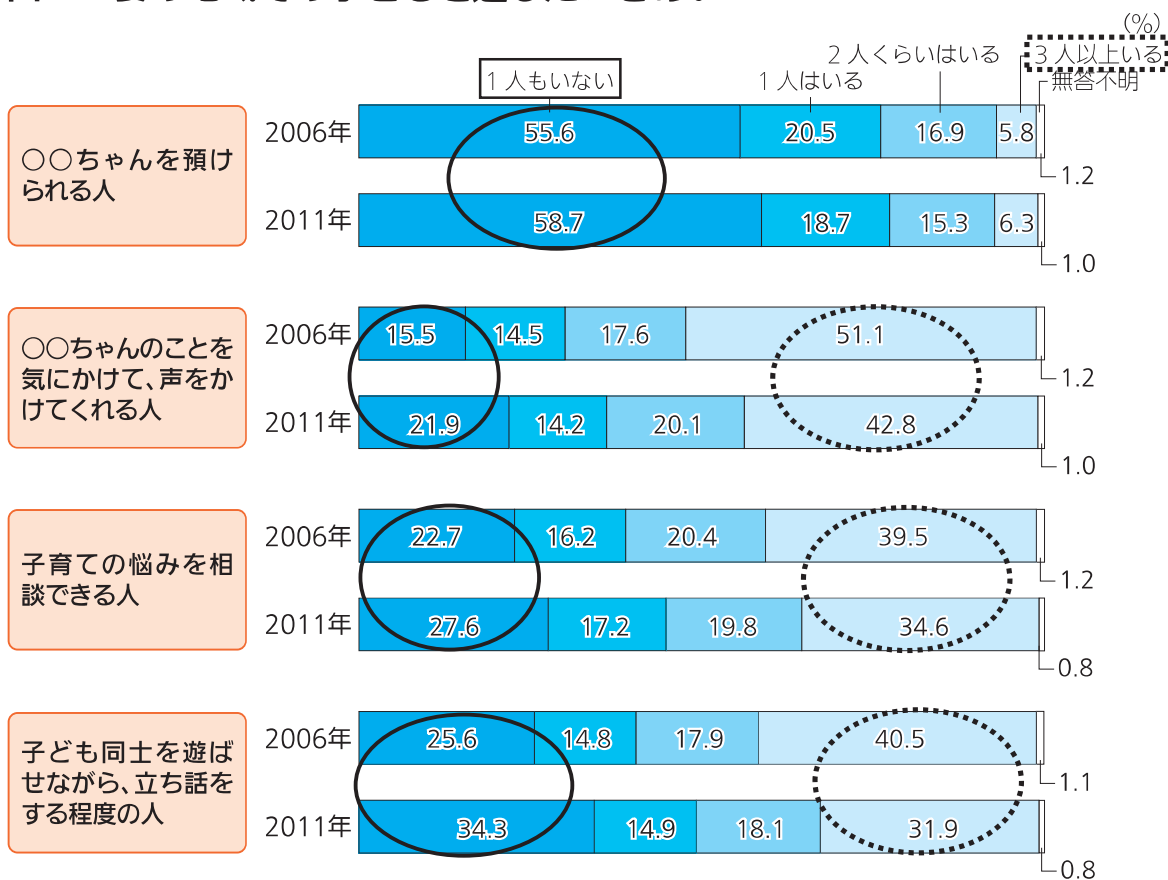
厚生労働省「ひとり親家庭の現状と支援施策の課題について」(2013)

図3 育児種類別に見た週1～2回以上育児を遂行した夫の割合



国立社会保障・人口問題研究所「第5回全国家庭動向調査」(2014)

図4 妻の地域での子どもを通じたつきあい



ベネッセ教育総合研究所「第2回妊娠出産子育て基本調査(横断調査)報告書」(2012)

3 親こそ支えが必要？

～今の親の悩みとは～

子育てには不安や悩みがつきものである。現在の子育て世代の人たちは、不安や悩みをなかなか解決できない状況であることを知る。

子育て・見守り両世代のコミュニケーションをとoshi、子育て世代を支えていく手立てを考えるとともに、地域住民が子育て世代とかわるごとの必要性を学び合う。

子育て

見守り

目安時間	90分	手法	エピソード
準備するもの	ワークシート、筆記用具、ふせん紙、模造紙、ペン、別添資料		
想定する学習機会	家庭教育講座、オピニオンリーダー研修、企業研修 等		

ワーク1 子育ての「すてきな思い出」を出し合う (10分)

子育てや小さな子どもとの関わりの中での、「すてきな思い出 (よかったな、うれしかったな、失敗したけど笑えたな、などの話)」を出し合う。

ワーク2 子育て中の悩みや心配ごとを出し合う (30分)

子育て中の悩みや心配ごとをふせん紙に書き (見守り世代は子育て中を思い出したり、見聞きしたりしたことを書く)、意見を出し合う。

声かけ例1

・子育ての中で、悩んだり心配したりしたことをふせん紙1枚につき1つ書き出しましょう。思い出したり見聞きしたりしたことでも構いません。

声かけ例2

・書き出したふせん紙をグループ内で発表しながら模造紙に貼りましょう。
・同じような内容があればまとめ、小見出しをつけましょう。

声かけ例3

・気付いたことをグループで話し合ってください。
・どのような悩みや心配ごとが多かったですか。

声かけ例4

・グループでの話し合いの様子を発表し、全体で共有しましょう。

資料を見て、以下の点について触れる。

※以前も今も子育ての相談相手は「配偶者・パートナー」「自分の母」の割合が高い。

※子育ての相談相手は、家族以外の人 (近所の知人・自分や配偶者の友人) の割合が減っている。

ワーク3 エピソードを読んで意見を出し合う (40分)

- ① エピソードを読み、自分がこの「母親」だったらどんな声かけをしてもらいたいか考えを出し合う。
- ② 支援が必要な家庭が身近にあったらどのように接するとよいかグループで話し合う。

引き出したい意見

- ・話を聞き、いつでも悩みや心配ごとの相談相手になる。
- ・子どもは親だけでなくみんなで支えていくからと伝え、安心してもらおう。
- ・近所の人同士で、気にかけて見たり積極的に声をかけたりするようにする。

まとめ・ふりかえり (10分)

悩みや心配ごとがある家庭に、地域住民としてどのような対応ができるか考える。

- 子育て世代の悩みや心配ごとについてわかったか。
- 地域全体で子育て中の親を支える必要性がわかったか。

ワークシート「親こそ支えが必要？～今の親の悩みとは～」

ワーク1 子育てや小さな子どもとの「すてきな思い出」をグループで出し合ひましょう。

ワーク2 「子育ての悩みや心配ごと」として思いつくことをふせん紙に書きましょう。また、グループで話し合い、気付いたことを発表しましょう。

ワーク3 エピソードを読んで考えましょう。

マサ子さん（62才）の住む地域には、子どもや親子が遊べる公園があります。マサ子さんが散歩をするときには、この公園の中を通るのがお気に入りのコースです。

ある日、マサ子さんは、見慣れない母親と幼い男の子がこの公園に遊びに来ていることに気がつきました。この公園には近所の人が多く来るので、お互いにあいさつをするのですが、この母親はほとんどあいさつをしていない様子でした。

別の日、用事を済ませたマサ子さんが、散歩とは違う時間にいつもの公園を通りかかると、あの母親が男の子のことを叱っていました。母親はかなり大きな声で叱っていて、男の子は泣いていました。（静かなお母さんかと思っていたけれど、ずいぶん厳しいお母さんなのね…。）そう思ったマサ子さんでしたが、その後も何度か同じような様子を目にし、だんだん心配になってきました。

1ヶ月後、マサ子さんは自宅の近くでその親子とすれ違いました。男の子は家に帰りたがらずぐずった様子で、母親も疲れ切った顔です。

マサ子さんは思い切って声をかけてみました。すると、2ヶ月ほど前この近所に引っ越して来たら、その母親には身近に相談する人がいないことが分かりました。

①あなたがこの「母親」だったら、マサ子さんにどのように声をかけてもらいたい書き、意見を出し合ひましょう。



マサ子さん



母親

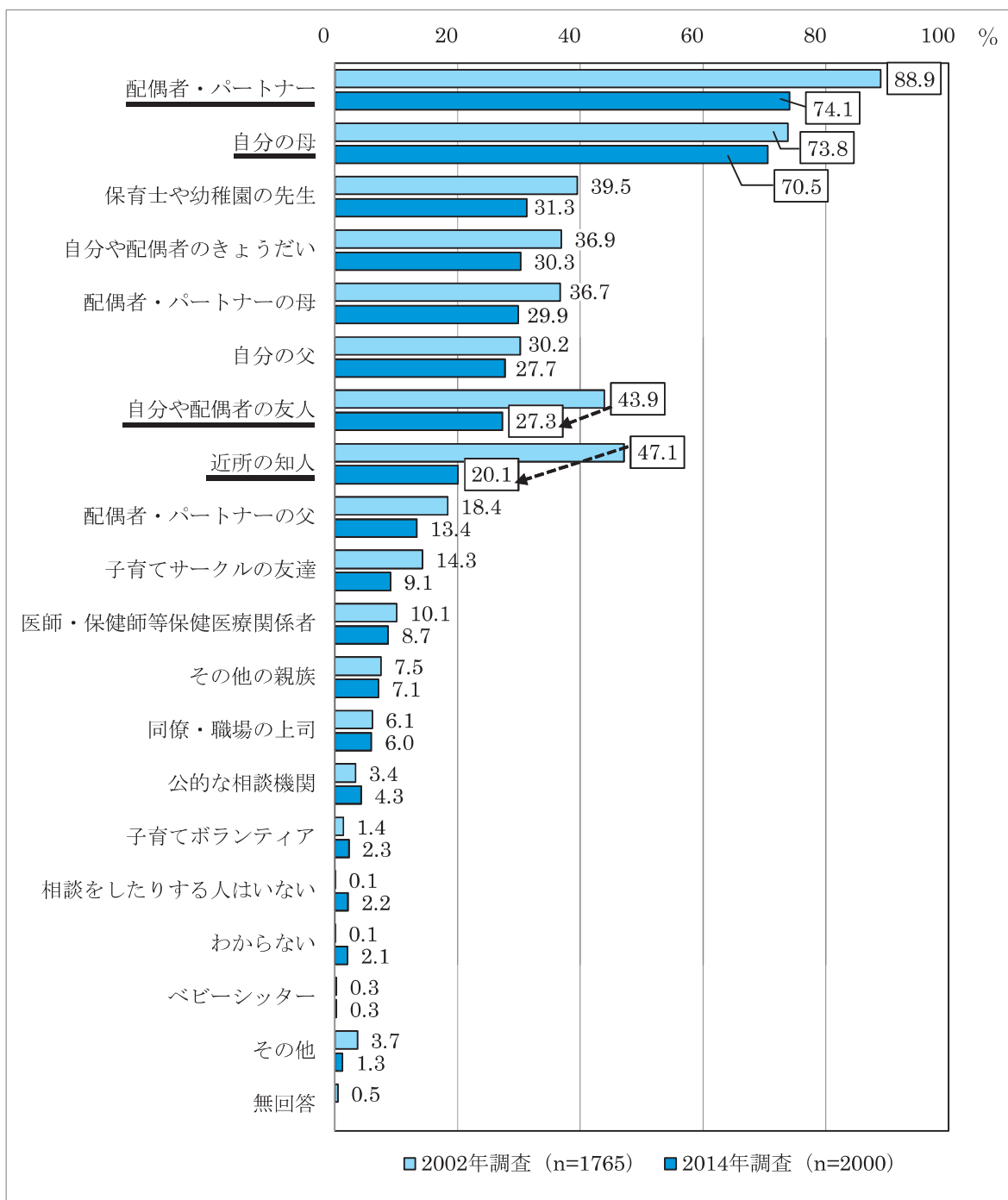
②エピソードのような家庭が身近にあったら、どのように接していけばよいと思いますか。グループで話し合ひましょう。

まとめ・ふりかえり

子育て中の家庭に対し、自分にはどんなことができると思いますか。

【資料】

図1 子育てについての相談相手（母親）：複数回答



三菱UFJリサーチ&コンサルティング「2014 子育て支援等に関する調査 2014 報告書」2014年12月

調査によると、子育てについての相談相手は「配偶者・パートナー」が最も高く、次いで「自分の母」が高い割合で、それは両調査でも同じだった。

2002年調査で3番目、4番目に高い割合であった「近所の知人」、「自分や配偶者の友人」の割合が2014年調査では減っている。これは、家族以外の近所や友人で子育てについて相談する相手が減っている状況があると考えられる。

コラム「子育てに関する相談先」

●【各市町児童相談担当窓口】

No.	市町名	担当課	電話番号	No.	市町名	担当課	電話番号
1	宇都宮市	子ども家庭課	028-632-2788	13	小山市	子育て包括支援課	0285-22-9626
2	鹿沼市	こども総合サポートセンター こども・家庭相談係	0289-63-2177	14	下野市	こども福祉課	0285-32-8903
3	日光市	人権・男女共同参画課 家庭児童相談室	0288-30-7830	15	壬生町	こども未来課	0282-81-1887
4	真岡市	児童家庭課 家庭児童相談室	0285-82-1113	16	野木町	こども教育課	0280-57-4138
5	上三川町	福祉課	0285-56-9137	17	大田原市	子ども幸福課	0287-23-8932
6	益子町	健康福祉課 保健センター	0285-70-1121	18	矢板市	子ども課	0287-44-3600
7	茂木町	保健福祉課	0285-63-5631	19	那須塩原市	子育て支援課 子ども・子育て総合センター	0287-46-5537
8	市貝町	こども未来課	0285-68-1119	20	さくら市	児童課	028-681-1125
9	芳賀町	福祉対策課	028-677-1112	21	那須烏山市	こども課	0287-88-7116
10	足利市	児童家庭課	0284-20-2137	22	塩谷町	保健福祉課	0287-45-1119
11	栃木市	子育て支援課	0282-21-2226	23	高根沢町	こどもみらい課	028-675-6466
12	佐野市	家庭児童相談室	0283-20-3002	24	那須町	こども未来課 子育て支援センター	0287-71-1137
				25	那珂川町	子育て支援課	0287-92-1115

●【児童相談所】

児童相談所名	所在地	電話
栃木県中央児童相談所	宇都宮市野沢町4-1	028-665-7830
栃木県南児童相談所	栃木市沼和田町17-22	0282-24-6121
栃木県北児童相談所	那須塩原市南町7-20	0287-36-1058

●【テレホン児童相談】

問い合わせ・・・電話番号 028-665-7788

9時～20時 通年可（365日、年末年始も含む）

●【児童相談所全国共通ダイヤル】

電話番号・・・189（いちはやく）

管轄の児童相談所につながります（24時間365日）

●【児童家庭支援センター】

名称	相談時間	所在地	電話・FAX・メールアドレス
にこにこ広場	月曜～金曜日 9:00～17:00	宇都宮市竹林町945-1 済生会宇都宮乳児院内	TEL 028-623-4152 FAX 028-626-5781 Email nikoniko@sunyuuji.org
ちゅうりっぴ	365日 8:30～17:15	さくら市喜連川1025 養徳園内	TEL 028-686-2220 FAX 028-686-2595 Email youtokuenhp@mbr.nifty.com

こども政策課「子育てに関する相談先」（平成29年度）

4 ご近所の子どものこと、知っていますか？

漫画をきっかけとして、地域の間関係が希薄化している現状について参加者同士（子育て・見守り世代）が確認し合う。また、両世代の大人が、子育て世代の不安や子育て家庭に関わる意義等について話し合うことをとおして、これから地域の子育てでできることについて考える。

子育て

見守り

目安時間	80分	手法	エピソード(4コマ漫画)、ディスカッション
準備するもの	ワークシート、筆記用具、別添資料		
想定する学習機会	家庭教育講座、PTA研修、市民会議研修会等		

ワーク1 地域の間関係が希薄になっている例をみて、原因を考える。(15分)

漫画をみて、まず、個人で子どもに無視されたおじいさんがどんな思いだったか想像したり、どうしてそうなったのか考えたりする。その後、グループ内で意見を出し合う。

声かけ例

おじいさんは、朝から嫌な思いをしてしまったようですね。まずは、おじいさんの気持ちやどうしてそうなってしまったのかを考えましょう。そして、順番に意見を出し合しましょう。

ワーク2 社会の現状や子育て世代の悩み・不安を知る。(20分)

資料を見て、子育て世代の抱える不安や、近所づきあいの現状を知る。また、「近所づきあいが多いか少ないか」が、子育てを楽しく感じられることに影響を与えていることを確認する。

確認したい事項

- ・子育て世代は、子どもの育つ環境について様々な不安をもっている。
- ・地域の中で子どもを通じたつきあいは希薄になってきている。また、子どもを通じたつきあが多いと感じている人ほど、子育てが楽しいと感じている傾向がある。

ワーク3 子育てにどのように関わるとよいかを話し合う。(30分)

漫画に出てきた子どもを例に、地域の方は、子どもにどのように接していったらよいか、また、親は、普段どのように声かけをしていけばよいかを考え、グループで話し合う。

声かけ例1

おじいさんが、子どもに声をかけるとしたら、何に心がけ、どんな声をかけたらよいでしょう。

声かけ例2

地域の人に、明るく挨拶できない子どもに、親はどんな声かけをしていくとよいでしょう。また、私たちは、普段から何に心がけて子育てをしたり、関わったりしていったらよいでしょう。

まとめ・ふりかえり これから自分ができることを自分の立場で考える。(15分)

今日の活動をふりかえり、子育て世代・見守り世代ができそうなことを自分の立場で考え、グループ内で発表したり、全体で共有したりする。

- 地域で人間関係が希薄化している現状や子育ての不安について理解できたか。
- 地域の大人が、子どもの成長や子育て家庭に関わる意義について考えられたか。

ワークシート「ご近所の子どものこと、知っていますか？」

ワーク1 漫画を読んで考えてみましょう。

① おはよう

② おはよう ございます

③ 全く、あいさつ もできない なんて!

④ どうして、こう なってしまった まる?

ある朝、登校のときのこと。朝のあいさつ運動で、地域の方が児童に声をかけています。

児童の目を見てあいさつをするおじいさん。ところが児童は、顔を赤らめて、黙って通り過ぎてしまいました。

どうやら、おじいさんは、児童に対して、どうしたらよいか困ってしまったようです。

●おじいさんは、無視されてどんな思いだったでしょう。また、なぜそう なってしまったのでしょうか。

.....

.....

ワーク2 資料から、社会の現状や子育て世代の不安や悩みを確かめましょう。

ワーク3 グループで話し合しましょう。

●子育て世代と見守り世代が、よい関係でいるためには、お互いがどんな働きかけをしていくとよいでしょう。

.....

.....

.....

まとめ・ふりかえり

●今後、自分の立場でできることは何ですか。

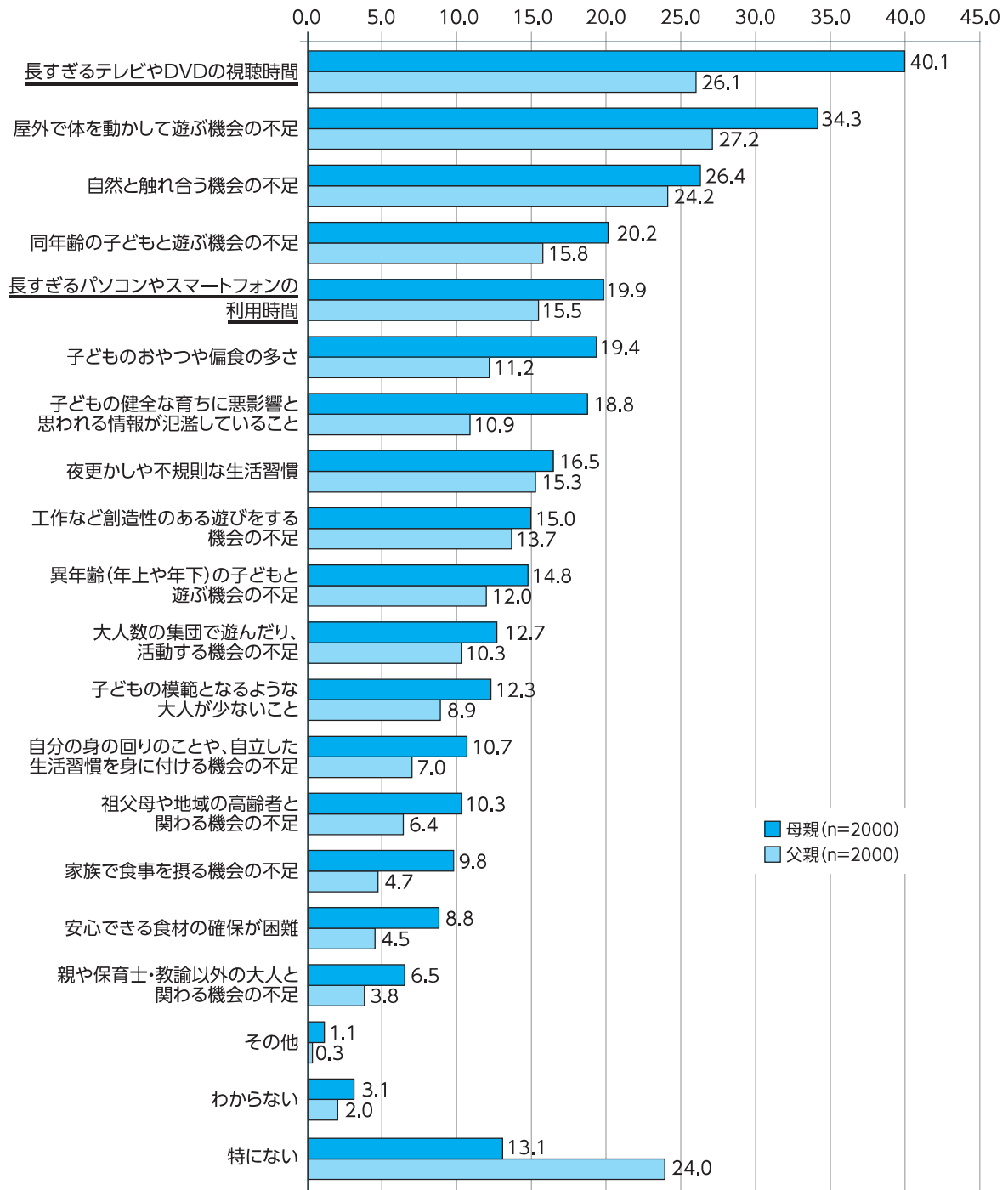
.....

.....

.....

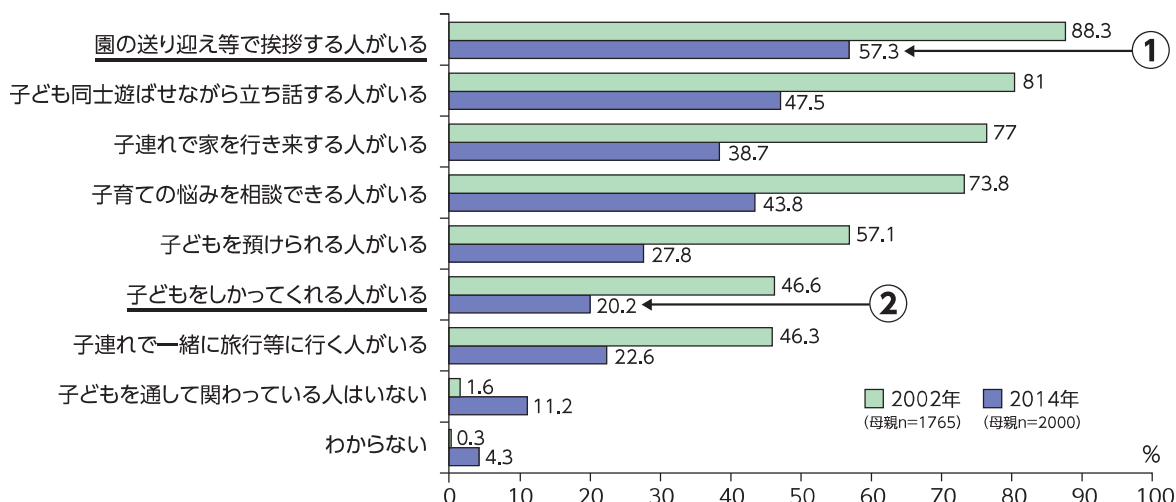
【資料】

図1 子どもの育つ環境についての不安：複数回答



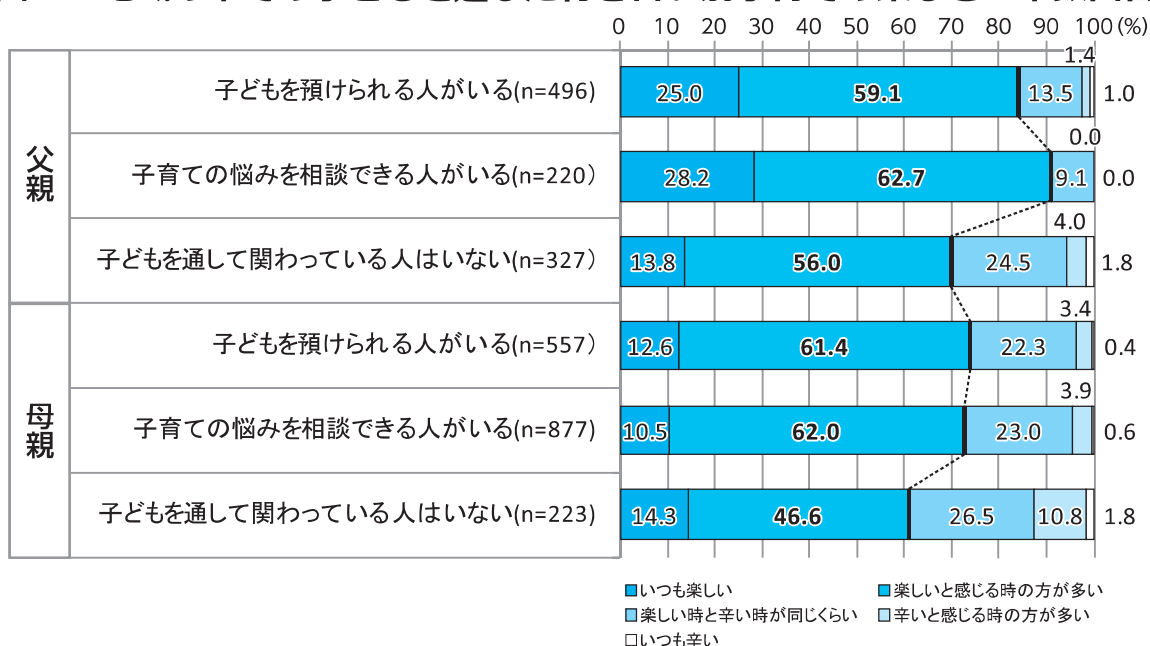
○父母の多くは、子どもの育つ環境に様々な不安がある。特に、テレビやスマートフォンにかかわる時間の増加や、具体的な経験の不足を心配している人が多い。

図2 地域の中での子どもを通じた付き合い：複数回答



- 母親にとって、地域における子どもを通じた付き合いは、全体的に減少している状況が見られる。
- チェックポイント
- ①「園の送り迎え等で挨拶する人がいる」「子どもを預けられる人がいる」と回答した人は、共に約30%減。
- ②「子どもをしかってくれる人がいる」と回答した人は、約25%減。
- *約10年の間でも、地域の間人間関係が希薄化しているのが分かる。

図3 地域の中での子どもを通じた付き合い別子育ての楽しさ：単数回答



注：図3は、図2「地域の中での子どもを通じた付き合い」の選択肢「子どもを預けられる人がいる」、「子育ての悩みを相談できる人がいる」、「子どもを通して関わっている人はいない」の3つについて、それぞれ「はい」と答えた人を母数 (n) として集計している。

○子育てを楽しんでいる割合をみると、父親、母親ともに「子どもを預けられる人がいる」と答えた人の方が、「いつも楽しい」や「楽しいと感じる時のほうが多い」と回答する割合が高い。

5 BEST 3 を決定!?!うちの地域の子どもは、こんな人に育ててほしい

子育て前

参加者が地域の子どもに対して「こんな人に育ててほしい」をランキング化する活動をおして、育てたい子ども像のイメージを共有する。さらに、そのイメージに迫るため、日頃の生活をふりかえり、自分たちが地域の大人として、どのように振る舞うべきかをグループで話し合う。

子育て中

目安時間	80分	手法	ランキング、ラベルワーク
準備するもの	ワークシート(個人用A4・グループ用A3)、ふせん紙(2色)、資料、筆記用具		
想定する学習機会	青少年健全育成研修、家庭教育講座、PTA研修等		

見守り

ワーク1 各自で「こんな人に育ててほしい」についてBEST3を決め、理由を考える。(10分)

- 1 項目の中から、自分の「こんな人に育ててほしい」のイメージに近いものを3つ選ぶ。
- 2 選んだものに1~3の順位をつけて書き出し、なぜその項目にしたのか理由も書く。

声かけ例

- 1 地域の子どもたちがどんな人に育ててほしいか考え、「こんな人に育ててほしい」をランキング化します。まず、御自分のイメージに近いものを3つ選んで、口に○をつけてみましょう。
- 2 選んだものからBEST3を決め、どうしてそれらにしたのか理由も書いてみましょう。

ワーク2 グループでBEST3を決め、「こんな人に育ててほしい」を共有化する。(20分)

グループ内で自分たちの意見を出し合い、グループの「こんな人に育ててほしいBEST3」を決め、ワークシートに書き出す。話し合うことで、参加者が育てたい子ども像を共有化する。

声かけ例

- 1 グループ内で意見を出し合い、「こんな人に育ててほしいBEST3」を決定しましょう。
- 2 BEST3を決定する際には、簡単に多数決するのではなく、なぜその項目を選んだのか理由を話し合い、グループ内で、イメージを共有できるよう気をつけて、意見交換をすすめてください。

ワーク3 子どもを理想の姿に成長させるため、互いの働きかけを考える。(35分)

参加者が「こんな人に育ててほしい」像を共有し、これから自分たちが、互いにどんな働きかけをし合えばよいか、また、どのように子どもと接するかについて考え、話し合う。

声かけ例

- 1 グループで決定したランキングを示して、他のグループの方々に説明してください。
- 2 自分たちのBEST3や他のグループのBEST3をふまえ、これから私たちが互いにどんな働きかけをするとよいか、また、子どもたちへどのように働きかけるか考え、ふせん紙に書きましょう。
- 3 グループ内で意見を出し合いましょう。そして、これからの地域の子育ての姿を整理しましょう。

ふりかえり 子どもが育つ上での大人の影響を理解し、自分のありかたを再確認する。(15分)

資料「子は親の鏡」を読み、自分たちのこれからの生活や行動を考えたり、自分自身のあるべき姿を再確認したりする。

- 「こんな人に育ててほしい」を考えることで、イメージを共有し、子どもを育てるための、すべての世代の互いの関わり方について考え、話し合うことができたか。

ワーク1 自分にとっての「こんな人に育てほしい BEST3」を決定します。

(1) 地域の子どもが「こんな人に育てほしい」を考えるために、自分のイメージに近いものを下から3つ選び、□に○をつけましょう。

A	積極的に地域行事に参加する人	B	自分の地域の自慢が言える人	C	近所の人に会ったら、気持ちのよい挨拶をする人	D	四季の移り変わりを感じ、自然を愛する人	E	地域の情報を様々な形で発信できる人
F	自分の職業以外の人と付き合える人	G	将来、この地域に住み、この地域で働く人	H	自分の生まれたふるさとや郷土に誇りをもつ人	I	地域のために自分のできることを実践する人	J	地域のお年寄りや子どもにやさしくできる人

(2) 選んだものに1~3の順位をつけ、その理由も書いてみましょう。

自分にとっての「こんな人に育てほしい BEST3」とその理由

	項目のアルファベット	選んだ理由
1位		
2位		
3位		

ワーク2 グループでの「BEST3」を決定します。意見を出し合い、グループ用のワークシートに書き出しましょう。(別紙)

ワーク3 グループで決定した「BEST3」を見て、私たちは、その実現に向けてどんな働きかけが必要なのか、意見交換しましょう。

◆こんな働きかけをするといい! アイデアの書き方



ア 1枚のふせん紙に一つの意見を書きます。(短い言葉をお願いします。)

イ 自分の考えを2色のふせん紙に分けて書きます。

- | | | |
|------------------------------|---|---------------|
| ① 子どもたちに(全世代から子どもたちへの働きかけ) → | } | ○色のふせん紙(子どもへ) |
| ② 親たちに(見守り世代から子育て世代への働きかけ) → | | △色のふせん紙 |
| ③ お互いに(同世代同士での働きかけ) → | | (大人同士で) |

ふりかえり 資料を読みましょう。そして、今日の活動をふりかえり、自分のこれからの生活をイメージしてみましょう。

【 こんな人に育てほしい BEST3! 】

*グループ内で BEST 3 を決めて、言葉で書き出しましょう

1 位	人に育てほしい
2 位	人に育てほしい
3 位	人に育てほしい

◆こんな働きかけをすると、うちの地域の子どもが育てほしい姿になる！

<p>子どもへの働きかけ</p>	<p>大人同士で</p>
-------------------------	---------------------

↑この欄にふせん紙を貼りだします。